



1 第7章 進行管理

2 1 進行管理の考え方

県庁内の環境学習に関連する部局の連携を図り、総合77的な取組を進めるとともに、持続可能な社会づくりへの寄与の度合い、施策体系別の進捗状況、関連する事業についての自己評価により、計画の実施状況を把握します。

計画の実施状況については、環境学習に関わる多様な主体で構成される「滋賀県環境学習等推進協議会」において議論をいただいた後、「滋賀県環境審議会」に報告し、その意見を計画推進に反映させます。この実施状況については、毎年度発行する「滋賀の環境（環境白書）」に掲載することで県民の皆さんへと公表します。

また、県内外の優良事例の収集に努め、「滋賀県環境学習等推進協議会」等での情報共有を図り、その内容は県民の皆さんへ公表します。

2 2 進行管理の指標

計画の進行管理のため、県の施策を次の6つに分類し、関連するアウトプット指標の推移をみていきます。そして環境学習の成果の示すアウトカムとして、県民の環境保全行動実施率を用います。

◆アウトプット指標：6つの分類の関連指標（参加者数や参加者の満足度など）

- (1) 人材育成および活用
- (2) 環境学習プログラムの整備および活用
- (3) 場や機会づくり
- (4) 情報の提供、普及啓発
- (5) 連携・協力のしくみづくり
- (6) 国際的な対応・協力

※ 中間支援（(1)～(5)）に、「(6) 国際的な対応・協力」を追加しています。

◆アウトカム指標

- ・環境保全行動実施率

3 3 進行管理の手法

計画の進行管理は、次の3つの階層構造で実施します。

- (1) 環境学習関連施策の実施が持続可能な社会づくりにどれだけ寄与したのかを評価するため、その成果を示すアウトカム指標として、学習を実際に「行動」へと移した人の数を表す指標のひとつである「環境保全行動実施率」の経年変化を活用します。計画期間中の環境保全行動実施率の数値指標は80%以上とします。また、環境保全行動の広がりが人々の幸福度に与える影響を計る指標のひとつとして、県政世論調査等の「幸福度」の経年変化を活用します。さらに、行動変容を計る指標として、「1人1日当たりのごみの排出量」なども参考とします。

- 41 (2) 県の施策を6つに分類し、それぞれの関連する指標を抽出し、その推移から6つの分
42 類別に、当該分野の課題や進捗度の把握を行います。
43
44 (3) 環境学習に関連する県事業について、施策の体系（6分類）別に整理するとともに、各
45 事業がギアモデルのステップのうち、どの部分を目的とする事業かを確認しながら、成
46 果について自己評価を実施します。
47
48 また、重点的な取組に関連する事業については、別途取組ごとに事業の分類・整理をし、取
49 組ごとの評価を行います。

